

- 1 開会のことば (牧副校長)
- 2 校長あいさつ (校長 三浦 祐子)
- 3 出席者紹介 (自己紹介)
- 4 学校概況説明

(1) 平成27年度教育目標・経営方針(校長)

- ・今年度、児童生徒数161名。3分の2が自宅からの通学生、残りの3分の1がたばしね学園生、寄宿舎生となっている。職員は、133名(6/1から134名)という体制でスタートしている。
- ・本校の学校教育目標は、「児童生徒一人一人が個性と能力を発揮し、可能性を最大限に高め、自立的・主体的な生活を送る」である。この目標が、私たちの教育活動によって、将来の社会生活につながるんだという意識を持って、教育目標の達成に全力を尽くしているところである。
- ・今年度の学校経営方針では、教育課程を少し変えた。この教育課程が本当に子供たちに適合しているかの検証、子供たちの障がいの種類のあり方がこれでいいのかを見直していく方針である。
- ・一貫した教育活動の実践に向けた学部間の連携については、それぞれの学部がそれぞれではなくて、他の学部を理解しながら進めていくことが大事。そのためには、児童生徒間交流をすることと、私たち職員が、全校児童生徒の顔を覚えていきたいと思いますと声をかけている。
- ・児童生徒の健康保持・増進及び安全の確保については、避難訓練や連絡網などで地域の方との連携をとっていききたい。
- ・進路指導の充実については、進路コーディネーターを2+0, 5で任命し、進路の開拓を行っている。
- ・保護者の進路意識の醸成については、家庭で進路について話し合える状況をつくっていかねばならないと考え、情報を提供したり、進路研修会を行ったりしている。
- ・障がい者雇用については、ハート雇用として2名の障がい者の方を雇用し、そのうちの1名は本校の卒業生である。
- ・センター的機能の充実については、支援学校は、地域の幼稚園・保育園、小中学校、高校の支援が必要な子に対して必要なことをコーディネートすることになっている。昨年度は200件を超える支援を行っている。今年、ボランティア養成講座を開催するので後ほどお知らせしたい。
- ・交流及び共同学習の推進については、地域の学校に定期的に交流籍を設けるということで、地域の小中学校に行って一緒に学ぶ機会をつくっている。
- ・保護者・地域・関係機関との連携については、キャリア教育の考え方からどのように連携していったらよいかを研究している。
- ・学校評価の活用については、様々な関係機関から評価をいただいて、学校評議員会の場で活かしていきたい。
- ・保護者との連携については、子供は学校だけでは育たない、保護者だけでも育たない、お互いに情報交換をし、意見を傾聴しながら信頼関係を深めて子供たちの教育に当たっていききたい。
- ・最後に、私たち教員が大事にしていかなければならないことを「基本姿勢」という項目で挙げた。人権尊重、笑顔と挨拶などがある。非難より提案とは、非難することは簡単だが、それでは前に進まな

いので提案することを心がけていこう、虫の目鳥の目とは、子供たち個々の細かいところまで気を配りながら、学校全体として大きい目で見えていこうということである。

(2) 各学部概況

小学部（上山小学部主事）

- ・新入生5名、在籍36名。
- ・「遊びの指導(低学団)」、「音楽・体育(高学団)」を教育課程に導入実施する。
- ・前沢小と2、3年生の子供たちが年1回交流予定。

中学部（藤原中学部主事）

- ・新入生8名、在籍36名。
- ・生活単元学習や作業学習を中心に学習を進める。
- ・昨年度「前沢の文化と産業まつり」への出展同様、今年度も、地域へ向けて積極的に参加していく。
- ・「音楽」を教育課程の導入実施する。

高等部（岩崎高等部主事）

- ・新入生32名、在籍89名。
- ・「音楽」「保健体育」「進路学習」を教育課程に導入実施する。

(3) 校内外支援について（菊池支援センター副部長）

- ・特別支援学校の「地域のセンター的機能を果たす」役割について
- ・交流及び共同学習(居住地校交流)の取り組みについて
- ・「学校へ行こう週間」(6/23~6/26まで4日間)の実施。

(4) 安全指導について（玉澤生徒指導副部長）

- ・災害等の緊急時に備えた避難訓練について。
- ・たばしね学園、白梅の園、本校、13区住民合同避難訓練。
- ・不審者対策訓練、搜索訓練、交通安全教室、通学生対象に登下校の通学指導の実施。
- ・地域との緊急連絡網の作成。

(5) 地域交流について（高橋総務主任）

- ・児童生徒が将来、出身地域で地域の人々と共に生きがいのある生活が送れることを目的に実施。
- ・毎年5月から1月末まで活動期間とし、11地区で開催。保護者が中心に計画実施。

(6) 進路支援について（上山進路支援主事）

- ・H26年度の卒業生進路先について。
小学部卒業生6名は本校中学部へ。
中学部卒業生22名中、本校高等部へ20名、2名は他の圏域の特別支援学校へ入学。
高等部卒業生24名のうち、生活介護等の福祉サービス事業所12名、就労継続支援B型(将来的に一般就労を目指す)3名、就労移行支援事業(就職をするための2年間の訓練)2名、施設入所3名、一般就労は4名。
- ・進路決定に向けて2週間の就業体験実習を年間2回実施して、進路先への適性や就労意欲向上等を図っている。

(7) 学校保健計画について（小原保健主事）

- ・各種健康診断の実施。
- ・インフルエンザや感染性胃腸炎などの予防のための取り組み。
- ・肥満・食育の取り組みについて。
- ・ヒヤリハット、アクシデント記録を実施。

5 協議・助言

C氏：なぜ、音楽・体育に力を入れるのか、お聞きしたい。

(教務主任)

「音楽」は、小学部では「生活単元学習」で、中学部と高等部は、「総合的な学習の時間」の中で音楽的要素の学習活動を行ってきており、学部毎に取り扱いも異なっていた。自分の楽しめるものの活動を広げていくことをねらい、音楽を基本から系列に沿って積み上げていくため新たに教科として新設した。「体育」については、小学部・中学部では、健康保持、高等部では体力強化というところが、進路学習にもつながっていく。基礎基本を積み上げていって進路に結びつけていく学習としてもっと定着させていくために「体育」を教科として新設した。

(副校長)

これまで時間割の中に「音楽」「体育」を設けおらず、生活単元学習や総合的な学習の中で音楽的なものや体育的なものを取り入れて学習してきたが、今年から各学部で「音楽」「体育」を設定して、12年間のキャリア教育の中でそれぞれの発達年齢に応じて指導していくことにした。

B氏：国語や算数的な内容は、どこで行っているのか。

(教務主任)

教育活動全般で取り組んでいる。小・中学部では、「生活単元学習」や「日常生活指導」、高等部は、「作業学習」の中で取り組み、計算や買い物、あいさつなど、学習と体験を合致した形で学びを積み上げていくということで、取り入れている。

B氏：学校経営方針は、期待達成度を入れた形でとても素晴らしいと感じた。達成した、まだ達成していないというのがあるが、これは先生方の評価か？

(校長) 校内評価である。

B氏：保護者とか関係機関など外部の評価は、どのような形になっているのか。

(校長) 学校評価の評価者というのは、私たち職員がする校内評価、児童生徒がする評価、保護者や地域の評価がある。これは基本方針なので、校内の職員だけの評価を載せている。来年度は、保護者の評価も反映するような内容にしたい。

B氏：学部間異動について教えてほしい。

(校長) 自分の学部だけでなく、前沢明峰として学校全体を見ることをねらいとして実施したい。高等部の先生が小学部に行くことによって、ああいう姿になるためには、小学部でどんなことを指導したらいいのか、ということも考えられるようになる。今年、各学部最低2名は変えた。

D氏：ヒヤリハットの事例は、どんなものがあるか。

(保健主事)

軽微なものから、医者にかからなければならないものまであるのだが。例えば、①物が倒れてきて、当たりはしなかったけれどギリギリここで倒れてしまったというケースがある。

それを我々はヒヤリハットとして、次回は倒れるところに生徒がいないように注意して物の配置を考えていこうというもの ②道具を使っていて手を切ってしまった、というケースもすべてヒヤリハットとして次はどのような取り組みをすれば事故が無くなるかということを考えて書いている。

D氏：木作業などもあるようなので気をつけなければならないこともあるでしょう。

(保健主事)

この取り組みは、生徒たちの安全を考えてということもあるが、我々の意識の変革、なにこれくらいということからの脱却、常に細心の注意を払って取り組んでいこうという意識をつくっていこうというものである。

B氏：卒業生の中で1名ハート雇用がいるようだが、どのような仕事をしているのか。

(校長)主に環境整備を行っている。学校技術員の指導を受けながら、廊下清掃、校内清掃など。

去年いた方は、外の清掃なども行っていた。とても一生懸命やってくれている。

(事務長)ハート雇用は、学校で経験を積んで一般就労に向けた取り組みを段階を踏んで行っていくというもの。去年いた方は一般企業の方に移行した。

(副校長)就労期限があり、その間にトレーニングを重ね、適性を見い出すというものである。

B氏：自分の地域の様々な行事にたくさん参加してくれてとてもいいなあと思っている。隣同士誘い合ってきたり、小学校の体育館で一緒に遊んだことを楽しそうに話してくれる子もいた。その子の親は、ずっと大人になってもここで暮らすんだから顔を覚えてもらっていると話していた。

(副校長)小学部から支援学校に入学した児童は、地元の子供たちとの交流が少なくなりがち。高等部を卒業して地元に戻った時、少しでも地元の方々に声をかけてもらえるようになることは、本当にありがたい。

(センター部)

将来その地域で、もっと狭いお隣さんとか、顔が見えるお付き合いが出来るようにというのが、居住地校との交流であったり、居住地域の交流でもあると思う。

D氏：13区の交流として、田植えや稲刈り、収穫祭などに、住民と一緒に交流をしている子供たちがいる。

(副校長)それは、たばしね学園さんの子供たちのようだ。本校の子たちにも機会を提供してほしい。

◎学校評議員会で、特にご助言をいただきたい事項

〈小中学部から〉

- ① 児童生徒が散歩や買い物等の校外学習をしているが、様子を見てお気づきの点があれば教えて頂きたい。

D氏：よく見ている。あいさつもしっかりするし、先生方の引率も丁寧である。前高さんのあいさつもいいが、明峰の子は全員があいさつする。

B氏：いい感じで散歩したりしているようだ。イオンでもよく見かけるが、一生懸命やっている様子が見受けられる。

〈高等部から〉

- ② 就業体験実習の受け入れ先が不足傾向にある。ご協力いただける事業所を紹介、橋渡ししていただきたい。

C氏：前沢区内にあるk 食品さんもいいのでは。

2週間の現場実習ももちろんいいが、2週間だけではわからない部分もあるので、先生方がまず会社に来て仕事を見てもらって、生徒にできることを見つけていくことも大事ではないか。

2～3人であれば、作業を見せたい。

D氏：市は窓口になってくれないのか。

〈進路支援部〉

市町村には窓口ない。就労のための窓口はほとんどなくて、地域の自立支援協議会というところで、就労部会というものがある。

〈進路支援〉

- ③ 卒業生の就労について改善すべき点があったらお願いしたい。

白梅の園さんの南側に、老人の方々が集うような憩いの場を作りたいと進めている話があったがどうなったか聞いているのでしょうか。

D氏：具体的にはなっていないが、やる方向では進んでいるようだ。

〈進路支援部〉

その場に椅子などを作るのであれば、本校でも木工班があるので、一緒に作業するのもいいのではと思う。もしそのような時は、声をかけてほしい。

〈支援センター部〉

- ④ 本校の支援センターの活動は、地域で十分周知されているのでしょうか。

B氏：幼・小に行った時、どんな形で支援しているのか。

センター部：基本的には、依頼を受けた後、電話などで担当者へ状況を聞く。そして、担当者とお会いして子供の様子を伺う。その後対応についての相談支援を行っていく手順となっている。研修等については、実際に研究会にお邪魔して支援の仕方について伝えている。

B氏：幼稚園で指導を受けてきた子が小学校に上がったのを見て、すごく変わっている、伸びている子供たちがいるので、成果が上がっていると見ていた。

〈地域交流〉

- ⑤ 地域交流の参加の仕方について、問題点や課題はどのような点でしょうか。

D氏：福祉の里まつりは、たばしね学園ですか？

(校長) 以前は各施設で別々に行っていたものを合同開催することとなり、今年で15回目になる。3施設と13区の皆様方のご協力で行っている。

B氏：中学校の子たちも、ボランティアに行くとはりきっているようだ。

一番地域の人たちが集まるのが、運動会だ。子供たちは自分一人ではいけないので、一緒に行こうと声をかけることが大事なのでは。そこのところにかかっているんだろうなと感じる。

〈情報部〉

⑥ 学校公式ホームページについて、工夫・改善すべき点があればお願いしたい。

D氏：運動会のことなど写真もいっぱい入っていて見やすかった。帰ったらゆっくり見てみたい。

（情報部）

学校評価についてと学校評議員会の過去の記録も入っているので、ぜひ見て頂きたい。

A氏：衣川で声かけ事案があったが、情報は入っているか？ （入っていない）

対外的な情報をどうやってキャッチしているかということで、入手方法を考えてみてはどうか。モバイルメールというのもある。

前小と前中では、保護者が街コミメールというのに登録していて、保護者の携帯に情報が流されるというのがある。伝達方法について今後検討していったらどうかと思う。

（副校長）本校では、すぐメールというのがあるが、保護者の方にも広げていきたいと考える。

〈お知らせ〉

（高等部長）

本校高等部でも、今年度から夏休み中に一日体験入学を計画している。管内の中学3年生を対象に呼びかけていきたい。

6 謝辞

- ・職員玄関を通して入って来ても、先生方は誰も気づかないことが多い。いらした時に全部チェックするというのは難しい。課題だと思っている。
- ・子供たちのあいさつがしっかりしているというお話を頂いたことは嬉しいことである。地域における子供たちの参加のこと、職場にいつも見学に来ていいこと等、ありがたく貴重なご意見をたくさん頂いた。
- ・評議員1年目の4名の方々は、本日、学校の様子を知って頂くというのが主なねらいだった。学校の見学後、ご助言をたくさん頂き、非常に貴重な時間だったと思っている。
- ・今年度始まったばかりではあるが、評価も含めながら皆さんにご助言を頂戴して、より良い学校づくりに努めていきたいと思っているので、よろしく願います。

7 閉会のことば（牧副校長）